



特集 先生に聞いてみました

町内5校 校長先生座談会

7月23日(木)、町内5校の校長先生の座談会を開催し、お話を伺いました。

■校長先生たちが考える、「須恵町の教育の強み」とはどのようなことですか？

須恵第一小学校長 稲津一徳先生(以下、稲津先生)

行政から、久しぶりに学校現場に戻ってきましたが、須恵町はコミュニティやPTAも含めて、地域や保護者の組織がしっかりしていると感じています。そのおかげで、学校でいろいろな教育活動を進めていく時に、さまざまな支援を受けられるので非常に助かっています。

運動会のテントを建てる時も、コミュニティの人たちや「おやじの会」の会員さんなどが、仕事もあるのに集まってくれました。そういう温かみのある組織

がしっかりしていて、学校を支援しようという気持ちが熱いと感じています。

須恵第二小学校長 森川正樹先生(以下、森川先生)

須恵町の強みと言うと、教育委員会が学校をサポートしている点だと思います。

特にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、さらには、学習サポーターや支援員などの職員が常勤で配置されているので、心強く思っています。子どもの教育にとっても、良い効果をもたらしていると感じています。

それと、地域の教育力が非常に高いと感じています。相模大会が毎年6月にありますけど、練習を見に行くと、地域の人が子どもを育ててくださっています。「しっかり挨拶せんか」とか、「負けてなに泣きよるか」とか。地域の人が積極的にかわって、子どもたちを育てるという須恵町の良さを感じています。

須恵第三小学校長 安河内昭夫先生(以下、安河内先生)

須恵町の強みは、教育を基盤に据えたまちづくりと、人づくりを柱としている点だと思います。

通学路を歩いていると、毎朝、10数カ所に町民の人が立って、あいさつをしています。一本の通学路にそれだけの人が立っている。そういう人の支援の豊かさを特に感じます。

もう一つは歴史です。須恵町には素晴らしい歴史があります。昔、炭鉱で栄えた時代があり、今の繁栄につながっていると思います。地域の人、子どもが歴史を知り、国を支えた歴史の上に立っていることに、自信と希望を持つことが強みではないかと思っています。

須恵中学校長 藤野敏郎先生(以下、藤野先生)

先ほど話が出ましたが、この自治体も非常に厳しい財政状況にある中、須恵町は町の子算で多くの学校職員を



配置していただいています。近隣の市町からしても、配慮していただいていると思います。いろいろな物や施設を整備していただくこともありますが、これが何よりもありがたいです。

それから、小学校を中心としたコミュニティが組織され、我々もそこに参加するので、が、区長さんをはじめ、地域の有志の人たちと親しくなれます。それは、何かあった時の強みになりますし、心強く思います。

それから、社会スポーツも非常に盛んで意欲が高い印象があります。各スポーツ団体、それぞれがよくやっていると

須恵中学校長 山田恒夫先生(以下、山田先生)

須恵町は教育委員会が学校教育課ではなく、子ども教育課になっていることから分かるように、子どもたちを中学校3年生まで一貫して育てていこうというコンセプトが明確になっていると感じます。

いわゆる学校教育課であれば、小学校、中学校、市町村立の学校が中心になるんですけど、0歳から幼稚園、保育園も含め、中学校卒業までの子どもたちを育てていこうという町の大きな狙いがあると思います。以前から進められている生涯学習のまちづくりの中の一つのコンセプトだと思っています。

それから、あと一つ感じるのは、保護者が非常に学校の教育に協力的ですね。5月に美化作業を行なった

時に、生徒は211人、保護者も134人参加してくださいました。PTA総会にも大勢の人が参加してくださり、保護者の学校への関心度が期待も含めて高く、協力的だと思っています。

■今後「強み」をさらに伸ばすために、力を入れたほうが良いことはどのようなことですか？



須恵第三小学校長 安河内昭夫先生

安河内先生 学校でも「頭・心・体」、バランスのよい子どもの育成を目指しているのですが、今後、強みをさらに伸ばしていくことを考えた時に、既に力を入れている学力や体力の面以外に、心の面をもっと伸ばしていかなければいけないと思います。また、読書をもっと進めていけば、よりバランスのよ

い子ども、人材が育っていくと感じています。

山田先生 不審者が出没した際の情報を、将来的には町当局あるいは教育委員会が統一して発信するシステムをつくった方がいいのではないかと思います。

■「心の教育」とは具体的にどのようなことですか？

安河内先生 学校全体や、地域ぐるみであいさつ運動などしていますが、学校の中ではできていない子ども、地域に出るとなかなかできない、そういう面に課題があります。

もっと日ごろからあいさつする機会をつくって、普段からできるようにする。心を育てるには、そういうことに今後もっと力を入れたらどうかと思っています。



須恵中学校長 藤野敏郎先生

藤野先生 心の教育で、私がよく話していることに、「五感を通して感じる、分かる」というものがあります。

よく引き合いに出すのが、お母さんが10か月子どもをお腹で育てて産む話で、男子諸君も「大変だよ」と言っています。その大変さを理解するために、3kgある体験エプロンを3日でも経験させたら、「大変だよ」という言い方が変わるんです。体験・五感を通して「こういうことなのか!」と感じ方が変わります。それは同じ「分かる」でも違ってくるわけです。

学校が大事にしているのは、実は「体験」なんです。体験と心の教育は、別のものと思われるかもしれませんが、体験を通して本当の意味で理解し、感じるというのが、心の教育にはとても大切な事だと思います。

■各学校の取り組み、力を入れているところを教えてください。